

羅臼湖踏査（第 1 回、6 / 14）の結果について

1. 参加者（敬称略）

- 知床羅臼町観光協会（池上、濱屋、大野、湊）
- 知床ガイド協議会（滝澤）
- 羅臼山岳会（涌坂、渡辺）
- 羅臼町・知床世界自然遺産協議会（佐々木、金澤）
- 知床財団（田澤）
- 北海道開発局釧路開発建設部（須藤）
- 羅臼町（遠嶋）
- 根室振興局（宮部）
- 根釧東部森林管理署（梶岡、上野、畑田、大野、小林）
- 釧路自然環境事務所（荒畑、柳澤、三宅、後藤）

2. 踏査のルート

既存歩道全域及び、羅臼湖最終展望台周辺

3. 踏査ルートの概要

A：既存道

B：最終展望台北側のササ原を経て、谷地形になっている斜面を登るルート。雪渓が遅くまで残り付近には雪田群落が存在する。

C：最終展望台南側のササ原を通り羅臼湖へ至るルート。既存の最終展望台までの木道を南側に移すイメージ。

4. 主な議論

【一の沼～三の沼】

- ・一の沼はあまり景観も良くないので、ルートから外しても良いのではとの意見があったが、一方で既に一の沼の存在は周知されており、ルートはなくとも来る人はいるだろうとの意見もあった。高い場所からみられるようなルートとするのも良いのではとの意見もあった。
- ・一の沼までの歩道で土砂流出によって崩壊している箇所もあるし、入口は付け替えた方がよい。
- ・基本的に現道のままが良い。一の沼～二の沼にかけては風景の良いポイントがあること、三の沼の展望デッキへの枝道部分も特に植生への影響を与えているとは思わないこと、新たなルートを付けることで樹木などの伐採が生じることが理由としてあげられる。

- ・二の沼階段部分の付け替えについて、地形を精査して判断すべき。また、二の沼近くを通過しないようルートをつける方が良いのでは。
- ・二の沼では昔は雪田群落でもっと多くの花が見られた、歩道から外れて写真撮影をする人がいる。
- ・三の沼では、杭と乾燥化の関係が理解できないので、きちんとした説明と研究を求めたい。木道が悪影響なのではなく、管理が問題なのでは。また、ボーリングを行い基礎水層を調べれば、杭との関係も分かるのでは。

【四の沼～羅臼湖】

- ・最終展望台付近の付け替えについては、北側ルートは斜面が急であり、積雪も多く残っていることから現実的ではない。斜面にルートを設定すると二の沼と同様に土砂が湿原に流れ込む危険性がある。また、北側ルートにあるお花畑を保全するためにもルートはつけない方が良い。
- ・最終展望台付近は、南側の湿原の端（ササ原）をとおり、現在の展望台付近にデッキを新設するのが現実的だろう。南側を大きく迂回するルートは沢の徒渉が必要となり、難しいと思われる。
- ・羅臼湖では、乾燥化によってササが侵入しているというが、40～50年前と特段変わっていない印象。

状況写真



既存道の様子 二の沼歩道は積雪の下



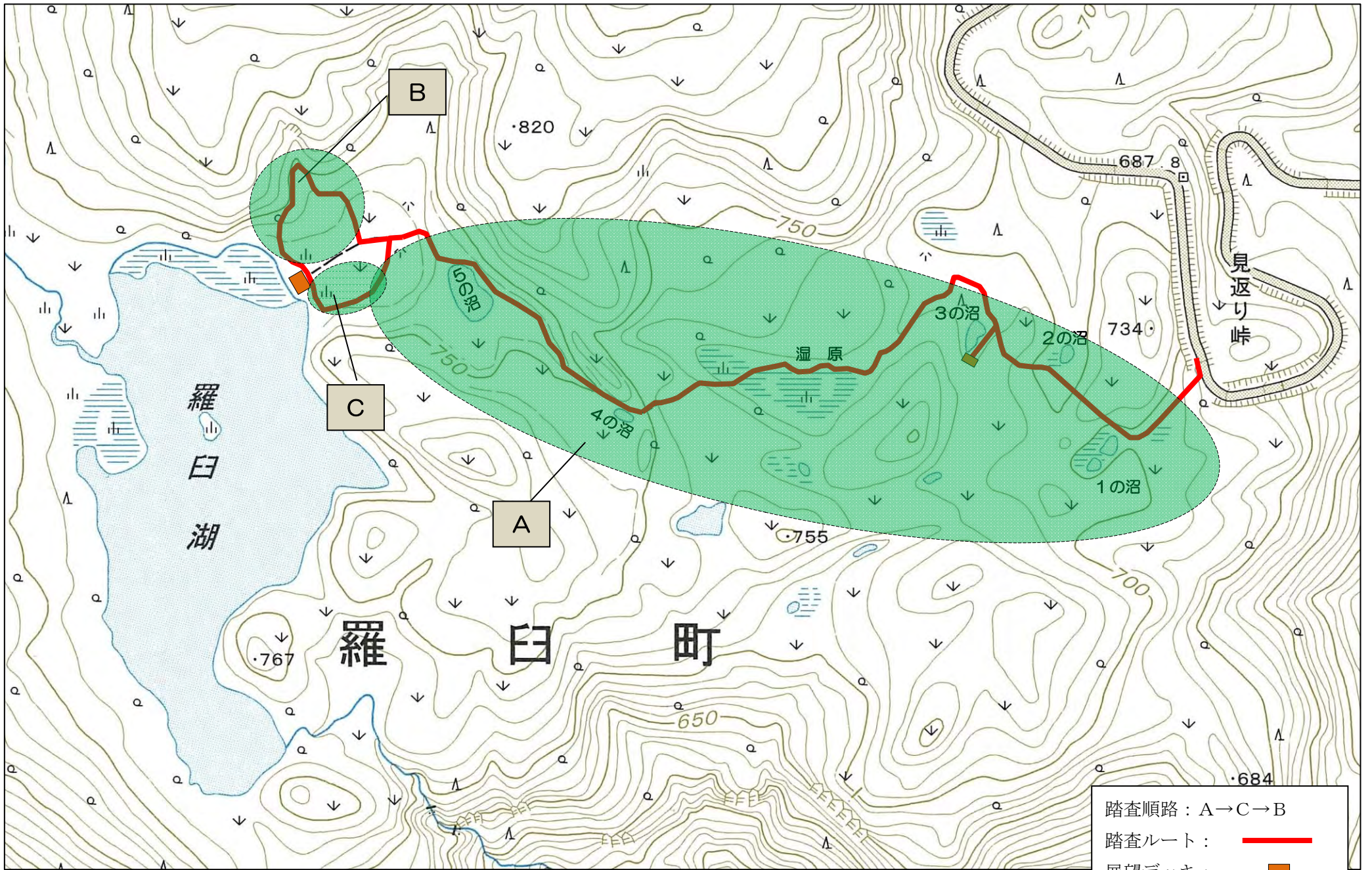
既存道 三の沼の様子



ルートB 羅臼湖北側斜面の雪田植生



ルートC 羅臼湖南側のササ帯



第一回 羅臼湖踏査ルート(2011.6.14 実施)